野迫川村・愛知時計電機・ゼロスペック
「灯油・LPガス残量IoT一体管理実証事業」に関する覚書を締結

～ LPガス用NCUと燃料配送プラットフォーム「GoNOW」を連携し、
過疎地域のエネルギー配送DXを推進 ～

奈良県野迫川村（村長：吉井 善嗣 以下「野迫川村」）、愛知時計電機株式会社（本社：名古屋市、代表取締役社長 國島 賢治 以下「愛知時計電機」）、およびゼロスペック株式会社（本社：札幌市、代表者 多田 満朗 以下「ゼロスペック」）は、LPガスおよび灯油の遠隔残量監視・自動検針と配送最適化を目指す「野迫川村における灯油・LPガス残量IoT一体管理実証事業」に関する覚書を、2026年11月16日（月）に締結いたしました。
野迫川村では、地域の高齢化や人口減少が進む中、最新のIoTとソフトウェア技術を活用し、効率的な燃料配送・管理と地域の見守りを実現する取り組みを進めます。



野迫川村 村長 吉井 善嗣（写真中）
愛知時計電機株式会社 上席執行役員 営業本部副本部長　武田 賢治（写真右）
ゼロスペック株式会社 事業本部　本部長　石塚 永稔（写真左）

■ 背景

野迫川村は人口約350人の「日本一人口の少ない村※1」で、高齢化や人口減少が進んでおり、高齢化率は50%に達しています。このような過疎地域において、インフラ維持は大きな課題となっており、灯油やLPガスといった燃料供給の確保もその一つです。こうした中、野迫川村は、村唯一のガソリンスタンドの廃業の意向を受け、村が中心となって事業承継の形を検討し、一般社団法人にて運営を行っています（※1離島を除く）。
本実証事業以前に、野迫川村とゼロスペックでは、2024年9月に「ライフラインとしての灯油供給の安定化による見守りプラス事業」の契約を締結し、IoTを活用した灯油配送効率化について先行して進めておりました。
このたび、LPガスの自動検針およびボンベ残量可視化を可能とするNCU（ネットワークコントロールユニット：無線通信端末）を製造・販売する愛知時計電機も加わり、燃料配送を一元的にシステム管理し、効率化を進める活動を推進いたします。

■ 実証事業の主なポイント

- LPガスボンベ交換の効率化：愛知時計電機製のガスNCUにより、交換が必要なLPガスボンベの状況を遠隔で正確に把握し、効率的に配送
- 自動検針による作業省力化：検針データを遠隔で自動取得し、現地巡回や目視検針の負担を削減
- 「GoNOW」による一元管理：灯油に加え、LPガスの残量・検針データを配送管理プラットフォーム「GoNOW」上で統合管理し、配送計画作成等を含めた業務効率化
- 過疎地域のインフラ維持：人手不足が進む山間部・過疎地域における持続可能なエネルギーライフライン構築モデルを確立

■ 役割

- 野迫川村：実証現場（のせ川くれよんSS等）の提供、住民への案内・同意取得
- 愛知時計電機：LPガス用NCU機器の提供・設置・運用、API経由での検針・残量データの「GoNOW」への提供
- ゼロスペック：「GoNOW」の提供・改修（LPガスデータ連携・一元管理画面の開発）および運用サポート、プロジェクト全体のリード



GoNOWシステムによる灯油・LPガス残量IoT一体管理のイメージ

【本件に関するお問い合わせ先】

野迫川村役場　担当：産業課

（TEL：0747-37-2101 / Mail：sangyo@village.nosegawa.nara.jp）

愛知時計電機株式会社　担当：IoT推進部

（TEL：052-661-5265 / Mail：kikaku@inet1.aichitokei.co.jp）

ゼロスペック株式会社　担当：寺尾

（TEL：011-218-0155 / Mail：terao.hiroyuki@zero-spec.com）